名古屋青年
みつかる。つながる。よくなっていく。
No.815 2026
YMCA News 4
2026年4月1日発行
1952年5月13日発刊
毎月1日（月刊定価1部60円）
（購読料はYMCA会費に含まれています）
公益財団法人名古屋YMCA
〒464-0848
名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL052-757-3331 FAX052-757-3332
●発行人 中村 隆
●編集人 名古屋YMCA広報

2026年度 年間聖句 「平和を実現する人々は、幸いである。」マタイによる福音書 5章9節

互いに愛し合って実現する平和

日本同盟基督教団シティ リジョイス チャーチ牧師 榊原 康成

「平和に暮らしている人は幸いです」と言われるのではなく、「平和を実現する人々は、幸いである」と聖書は語ります。このみことばを聞くとかなり驚くのではないでしょうか。私が平和を実現するのだと言われたなら、私は恐れてしまうように思います。また、小さく弱い存在の自分にはそのような力はないと感じてしまうことでしょう。もしかすると、実現できない自分を責めてしまうのかもしれません。

それでも聖書の神は、私たちがそれを実現するように語りかけています。いえ、実現するように命じているのです。そしてそのことに関わっていく人々は、幸いなのだと教えてくれます。この聖書のみことばを聞いた私は、どうしたら良いのでしょうか。

それを考える時に、ここにはもう一つ大切なことが示されていることに目を留めます。ここで語られるのは「実現する人々」なのです。平和は誰か特別な人によって作られ、実現するものではないのです。

聖書の神の語り掛けを聞いた人たちが、自分の幸いだけを求めて行動するのではなく、神と隣人を愛して、私たちが互いに愛し合って行動していく時に、その人々によって平和は実現していくのだと教えてくれるのです。

それは私たちのことです。そして平和を実現することは可能なのです。そう私は信じています。

今は、対立、分断、格差といったことが声高に叫ばれています。他人事ではなく、私たちは実際にそれを身近に感じ経験しています。今こそ、私たちYMCAに集い関わる者は、一人ひとりが平和を実現する者なのだと自覚して行動していきたいものです。このみことばに示される「人々」は私なのです。対立や分断といった言葉や周囲の状況に振り回されるのではなく、みことばを信頼して、みことばが示す平和を実現する一人になっていきたいものです。

平和を実現するためには、YMCAに関わる私たち一人ひとりの行動が大切になります。私たちが、YMCA集う幼子、子どもたちから青年たちを心から愛して行動していきましょう。今までもそうしてきました。その実践を今一度大切にして、新しい年度も活動していきましょう。

YMCAに集うことで、愛された子どもたち青年たちは、やがて自分を愛し、隣人を愛する人へと成長していくことでしょう。そしてその愛されて愛する人になった人たちによって、対立、分断ではなく、和解と一致を実践して平和を実現していくことになるのだと信じています。

聖書の教える希望とは、望みが持てない時にこそ、聖書の神の愛に望みを置いて、神のみことばに聞き従っていくことで、希望が実現することを教えてくれます。今がその時です。YMCAが活動の基盤とする聖書の愛のみことばに立ち、私たち一人ひとりが小さな愛の実践を続けることで平和を実現していきたいものです。

私たちは、これまでも聖書の愛に立って活動を続けてきました。諦めたり失望したりするのではなく、聖書の神に期待して愛の実践を続けていきましょう。今だからこそできる愛の実践があります。小さなことで良いのです。互いに愛し合って実践しましょう。その小さな愛の積み重ねこそが平和の実現にもっとも近い行動のはずです。幼子に代表される小さく弱い存在を愛する、私たちの小さな愛の実践がYMCAから周りの人々へ、社会へと広がっていくのだと期待をしています。今の混沌とした時代だからこそ聖書の示す愛に根ざして、平和が必ず実現することを信じて、新しい年度の活動を始めていきましょう。平和を実現する人々の一人になっていきましょう。

東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごや

東日本大震災から15年目、13回目の東日本大震災犠牲者追悼式あいち・なごやが3月11日に鶴舞公園で行われました。200名を超える方が集まり、犠牲になった方、困難な中にいる方を思い、2時46分に黙祷を捧げ共に祈りました。ワイズメンズクラブ、ハーベストクラブからもご参加いただきました。

夕方の部には、高校生が40名ほど集まりました。様々なエリアで募金活動を行った後、追悼式では「花は咲く」を合唱しました。高校生たちが集めた募金は、進学が困難な環境にある仲間たちの奨学金となります。東日本大震災の記憶はない高校生たちが15年経った今でも同じ世代の仲間のために動き続けています。移り変わっていく高校生という世代にも、意思が引き継がれています。

実行委員の中には、1回目の追悼式から変わらずに実行委員として携わっている方もいます。熊本、能登半島での大きな災害があったときには、助けを求めている人の元へいち早く駆けつける人たちです。15年前には、愛知県に避難してきた人たちの心に寄り添い活動をしていた方たちでもあります。1年に1回、この追悼式で実行委員の方と顔を合わせ、近況や思い出話をして、元気をもらっている避難してきた方もいます。

15年前の春、幼稚園にチューリップの花が咲き、明日の約束をしてお家に帰る子どもたちの姿が、当たり前でなく、とても尊いものだと感じました。3月11日には、悲しい気持ちを持ちながらも、また来年会いましょうと約束ができる人がいることは、励ましにもつながっているのではないかと思いました。

（担当スタッフ　遠藤 恵美子）

「私たちはあなたたちを決して忘れません。これからも変わらずに被災地と被害者に心を寄せていきます。あれから起きた沢山の災害も含め、東日本大震災を教訓に来る災害に備えます。」

東日本大震災犠牲者追悼式
あいち・なごや実行委員会　宣言より

Road to 125

連載『Road to 125』はじまります！

1902年（明治35年）に設立された名古屋YMCAは、多くの方のお支えにより、来年で125年を迎えます。当時の名古屋YMCAは、演説会、キリスト教諸集会、社会問題に対する運動を行ったと記録されています。その後、高専・大学受験科開始（大学予備校の前身）、名古屋中央英学院発足（英語学校の前身）、図書部、音楽部、人事相談部など展開しました。

名古屋YMCA会館が1925年に瓦町に建てられたころから、現在のような体育、音楽、キャンプを楽しめる場の提供が広がります。1945年にこの会館が空襲で全焼し、1949年に第一期復興開館が完成してからは、伊勢湾台風復興支援、ロサンゼルスセミナー、ソウルセミナーなど海外との交流事業もはじまり、さらに世界が広がる体験ができるようになりました。今でも大切に繋がり続けているプログラムもあります。

1925年 瓦町会館

私たちが125年間歩みを進めてこられたのは、本当に多くの方に支えていただき、繋がりを持ち続けていただいたおかげです。5月号より、現在もYMCAに関わりを持ち続けてくださる方々を紹介します。YMCAでの思い出を中心に、今を元気に生きるみなさんの糧を伺います。

連載 事業所紹介

名古屋YMCA本館

名古屋市千種区にある名古屋YMCA本館は、2015年東区代官町から移転し、東山線「池下駅」から徒歩約5分の場所に位置しています。子どもから大人まで幅広い世代が集い、学びと交流を深める場です。

1階ではこひつじ保育室（小規模保育園）があり、2～5階は子ども向けの体操クラスや英語クラス、学童保育アフタースクールFun!、ピアノクラス、書道・書き方講座など、多彩なプログラムを実施しています。運動や学び、表現活動を通して、一人ひとりの個性や成長を大切にしながら、仲間とともに充実した時間を過ごすことができます。また、長期休み期間には集中体操教室や学童保育、長時間英語プログラムなど、季節に応じたプログラムも実施し、子どもたちが新しいことに挑戦できる機会を提供しています。成人向けには話し方教室やヨガクラスを開講し、健康づくりや自己啓発の機会を提供しています。

地域に根ざした活動を大切にし、安心して通える居場所として、多くの方に親しまれています。今後も世代を超えたつながりを育みながら、地域社会に貢献してまいります。　（担当スタッフ　広瀬 謙一）

2025年度ピンクシャツデーの様子
子どもたちだけでなく、スタッフもピンク色のものを身に着け取り組みのアピールを行いました

〒464-0848 名古屋市千種区春岡1丁目2番7号
TEL 052-757-3331　FAX 052-757-3332
【受付時間】9:00 ～ 18:00〔日・祝日休館〕

総主事コラム

ごんぎつね

先日、新見南吉記念館（愛知県半田市）を訪れ、改めて彼の作品に触れる機会がありました。代表作「ごんぎつね」は18歳の南吉が書いた物語です。いたずらばかりしていた狐のごんが、ある出来事をきっかけにいたずらを反省し、こっそりとお詫びの品を届け続けるものの、最後には誤解されたまま撃ち殺されてしまうという悲しいお話です。なぜ若くして彼がこのような作品を書いたのか疑問に思っていましたが、南吉は4歳で母親を亡くし、6歳で継母に育てられ、8歳の時に養子に出されるという経験をしています。16歳の時の日記には「やはりストーリィには悲哀がなければならない。悲哀は愛に変わる」と記しています。

20歳の作品「手袋を買いに」では、冬の寒さの中、片方の手を人間の手に変えて手袋を買いに行った子ぎつねが、間違ってキツネのままの手を店で差し出しましたが、無事に手袋を手に入れ、母ぎつねの元に帰ってくることができました。人間を信頼する子ぎつねに対して、母ぎつねは「ほんとうに人間はいいものかしら」と問いかけます。

ウクライナ、ガザに続き、イランへの空爆が続いています。多くの子どもたちが悲惨な体験をし、犠牲になっています。命が守られた子どもたちも心に深い傷を抱えながら大人になっていきます。一方で、イランの圧政に苦しめられた女子サッカー選手がオーストラリアへの亡命を認められるなど、戦争がなくとも平和に暮らすことができない現実も存在します。だからといって武力による侵攻が許されるはずはありません。

病弱であり、29歳で天に召された新見南吉が、作品の中で最後に問うた「ほんとうに人間はいいものかしら」という言葉が、頭から離れません。

（中村 隆）

日本語学院卒業式　学習発表会＆川柳コンテスト表彰式

3月19日、東文化小劇場に於いて卒業式が行われました。今期は58名の留学生がそれぞれの夢の実現に向けて、新たな進路へと旅立っていきました。

同時開催された学習発表会では、留学生が体験した日本の文化や若者言葉、授業の様子などの動画が流され、日本語学習の成果と習熟度の高さが感じられました。また授業の一環として作成された川柳について、東海ワイズメンズクラブで審査していただき、優秀作品が表彰されました。素晴らしい作品をご紹介いたします。

最優秀賞

味噌食えば　幸せになる　名古屋人
ガイアさん（イタリア）

優秀賞

せんそうで　いなくなったの　おとうさん
ナインさん（ミャンマー）

笑いとは　苦しい時の　動力だ
ケンさん（中国）

暗闇を　破っていこう　将来へ
イシさん（台湾）

女神です　守りたいです　一生です
ケンさん（香港）

維持会員感謝・ご寄付感謝

※ご寄付をいただくタイミングによっては、掲載が前後する場合がございますのでご容赦ください

維持会員（継続）

加藤　朱美　　相馬　静香　　真鍋　孔透　　瀬口　昌久
山村　喜久　　深谷　　聡　　小林　純子　　近藤　　豊

寄付金・募金

（学童キャンプ）　下村　徹嗣
（一般寄付）　下村　徹嗣

（根の上募金）

山本　　徹　　荒川　龍一　　大原　茂幹　　中澤　嗣子　　浅野　猛雄　　鈴木　太郎　　東海ワイズメンズクラブ
名古屋グランパスクラブ　　游神会

早天祈祷会

日　時　4月7日（火）7:45～
会　場　名古屋YMCA5Fチャペル
奨　励　松浦 剛先生

お問い合わせ

名古屋YMCA	052-757-3331
YMCAこひつじ保育室	052-757-5530
南山ファミリーYMCA	052-831-6968
南山幼稚園	052-831-8271
神沢ファミリーYMCA	052-879-6300
YMCAかみさわ保育園	052-879-6222
名古屋YMCA日本語学院	052-531-0077
発達サポートYMCAかみさわ	052-879-6300
かりやYMCA保育園	0566-62-8227

https://nagoyaymca.org

名古屋YMCA使命

「名古屋YMCAは、キリスト教精神に基づき、すべての人びとに、生涯にわたる学習の場と、社会参加の機会を提供し、相互の交わりと連帯を通して、共に生きる世界の実現を目指します。」

2026年度聖句

「平和を実現する人々は、幸いである。」
マタイによる福音書　5章9節